

聖徳大短大 O片柳千代子 実践女短大 樋口富枝 聖和学園短大 石川  
妙子 尚絅女学院短大 遠藤時子 村田陽子 郡山女大短大 門馬寿子

目的 既製和服の表示については、文部省科学研究費による“消費者問題としての「表示」に因する家政学的研究”の役割分担として衣生活関係の一端に民俗服飾部会がたずさわったことから、表示問題に既製和服をとりあげ実態調査を行った。既製和服は近年、若年層を中心に需要の漸増がみられるが和服の適合性については理解度が低いと思われる。そこで表示は和服選択の一つの目安となるので、既製和服とのより良い関りをもたらしめるための問題点としてとりあげることとした。

方法 聞きとり調査により実施した。①調査地域 東北・関東・関西・九州の4地域  
②期間 平成2年11月から平成3年2月末 ③場所 和装品製造卸・百貨店・呉服専門店  
大手量販店・大手縫製会社など ④品目 大裁女物長着を始め男・女・子供物を含めて11  
品目 ⑤調査者 民俗服飾部会の「表示」に因するコア委員他

結果 表示は品質表示・絵表示・寸法表示で、主たる寸法表示については規格化されていない。現在は業界の任意の寸法表示が行われている。サイズ表示は、衣服寸法であり、例えば長着類は、身丈・そで丈・ゆきの3寸法の表示が主として行われている。寸法設定については、大手縫製会社の場合、従来の和服仕立上り寸法をベースに、受注寸法実績と変動した身体寸法などを勘案して決定している。また、同社に発注する和装関係業者は、それぞれの購買層を想定して特徴づけをしているなど、寸法設定には個々の動きが目立つ。また、寸法表示についての地域差は余りみられない。既製和服の需要の拡大とともに、寸法表示の規格化・統一化がのぞまれ、それについての提案をしていきたい。